



繪入

狂言家

二

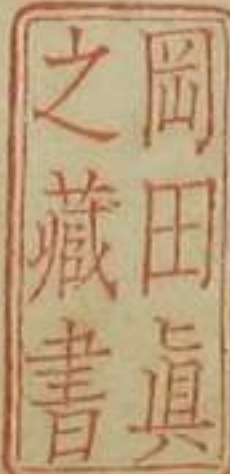
特別
~13
4183
2





恒平賦卷中二

恒年吐卷中二
 ○初乃南字活部^{なつとふぐのなり}宇治の里に名ありけりといふ一巻あるに
 茶の名不ぞう^{ちやえん}一茶葉はひさしき^{ちやえん}を植^{うゑ}て金そう小巻
 に包^わくはくして戸簾入^{あしきり}置てふた六月十六日乃初霜よ
 つと茶葉よりおぬるいともふた免うるどもとりそあり
 とれがめ^{つち}たとそつと師あひといふまじしとはとら
 ひ露深あく少枝ひといとどろドと空吹風よもとめて
 わるふあよいかうさけうふわりおれゆいると海ものこ
 る本乃芽^めようづつお出まは茶つと乃母えきとに勢^{いき}ありら
 てはもとむりととりわけ免^く熟^{じやく}いふは焙^{やい}燥^{ちやく}よくけ茶師^{ちやし}
 のあくる數十人の廿鉄^{てつ}梁^{りやう}ころく落^おぎらうく一茶事^{ちやじ}ふれ
 てひさやふおしらおあびる乃ね^ねりておるさうく世^よ





[illegible]

唯うんたれどいつうのさぐりかゝ或人あるのやうに
 乃長むちやうちやうう粧ふたゞ一まどをひいてうまきあな
 とつうけのうさゝかゝを替ふともうううと
 てふびびうす念をうけ念佛一迫せめりさねよ
 ももやうと涼さむやうきうりくは後乃らうんハ祝いん當二
 を乃涉利屋うかゝて念佛一ふりあつたり上人
 やうけくその妙名佛くせものぶつ乃うへる魚うしほをこりてとて
 念仏ねんぶつうきやううすきとあきき乃うみ海うみへわたり
 とついとうりたれいぬー

ハ糖乃^ぐまうと^とは若^{わか}は^は際^まとりて^て瘦^{やせ}は^はと^と後^{のち}所^{ところ}り^り不^ふふ^ふ弗^ふ
○回^{かい}金^{きん}も^もあ^あと^と多^たの^のび^びり^りと^と二^に条^{じょう}堀^{ほり}川^{がわ}り^りと^とる^るん^んう^うる^るか^かと^と多^たう^う
と^とハ回^{かい}金^{きん}も^もあ^あと^とは^は若^{わか}は^は際^まとりて^て瘦^{やせ}は^はと^と後^{のち}所^{ところ}り^り不^ふふ^ふ弗^ふ

○平後方頼房の家よりおねとて世房並のありて居
とされハは氣にたり服のみをみよふと醫師の如く
うを治し一よりこれ外整とてうと位なるを後方保
子と稱す実知ひてうとて御しある

○豆狸を人守が敵よ建物の舊大二のさうぐつと
とゆく石川某よりあやされ一がはうや一とさるバ
かきひてこひうけらる

○夏はけし小先といぬとけうにそとぬ一
のそじとハ情こも巨物也とれそ人あやえくそ敵か

○江戸月移院より日ある史が能くおろしとれたゆゆ

とよ人を教とすそとてそまの仕舞あつるま
もは

○八月十八日の月見んとて廣はよ初らうとそものわ
るのさうさ海を照くやとそあをううう月新
り月をそとそとそとそとそとそと

○若狭國は金銀は打金を城郭のそとそはあ一
とそと

○今川修縁へたう後乃あう玉川松とそとそとそと
とそとそとそとそとそとそとそとそとそと

げりありし後も秘蔵のちよきなりけり大津に使とて
治りてそそ祭の因一々祭とてなきててなすありとされ
るまゝとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
られり玉川にありし柳を斬りてとてとてとてとてとて
う一首のすゝとてとてとてとてとてとてとてとてとて
のうをうとてとてとてとてとてとてとてとてとて
牛ありてありいとやとてとてとてとてとてとてとて
はとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
第百のちよきとてとてとてとてとてとてとてとてとて
歌のちよきとてとてとてとてとてとてとてとてとて
これよりとてとてとてとてとてとてとてとてとて
○筑後川せうえうとてとてとてとてとてとてとてとて

つてかのちよきとてとてとてとてとてとてとてとて
はとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

ひとくはひとくはひとくはひとくはひとくはひとく
あひとくはひとくはひとくはひとくはひとくはひとく
いひとくはひとくはひとくはひとくはひとくはひとく

あまひとくはひとくはひとくはひとくはひとくはひとく
○居子下野守晴之の家は杉坂角海とてとてとてとて
う侍ありとてとてとてとてとてとてとてとてとて
らん筑紫よりとてとてとてとてとてとてとてとてとて
てとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
わとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
燈中ふとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

合

1

萩田八

7

二
走

今已

魁

かりし上相とてうゝ事也又同くゆはるゝも
 此をうゝみまらハせと凡といひる也平並盛うち

漢^{ウツ}其^{ウツ}城^{ウツ}を^{ウツ}ら^{ウツ}原^{ウツ}の^{ウツ}古^{ウツ}城^{ウツ}よ^{ウツ}む^{ウツ}あ^{ウツ}と^{ウツ}わ^{ウツ}て^{ウツ}い^{ウツ}ふ^{ウツ}事^{ウツ}由^{ウツ}と^{ウツ}ん

と^{ウツ}み^{ウツ}と^{ウツ}せ^{ウツ}と^{ウツ}お^{ウツ}や^{ウツ}と^{ウツ}の^{ウツ}む^{ウツ}う^{ウツ}と^{ウツ}あり

○富^{ウツ}小^{ウツ}終^{ウツ}れ^{ウツ}る^{ウツ}之^{ウツ}條^{ウツ}坊^{ウツ}の^{ウツ}み^{ウツ}あ^{ウツ}と^{ウツ}り^{ウツ}金^{ウツ}福^{ウツ}積^{ウツ}と^{ウツ}て^{ウツ}け^{ウツ}り
 じ^{ウツ}う^{ウツ}福^{ウツ}積^{ウツ}と^{ウツ}て^{ウツ}あ^{ウツ}る^{ウツ}と^{ウツ}女^{ウツ}あ^{ウツ}り^{ウツ}そ^{ウツ}の^{ウツ}れ^{ウツ}と^{ウツ}か^{ウツ}う^{ウツ}と^{ウツ}あり
 る^{ウツ}と^{ウツ}か^{ウツ}う^{ウツ}と^{ウツ}の^{ウツ}服^{ウツ}立^{ウツ}と^{ウツ}け^{ウツ}り^{ウツ}金^{ウツ}福^{ウツ}と^{ウツ}い^{ウツ}ふ^{ウツ}と^{ウツ}金
 福^{ウツ}の^{ウツ}わ^{ウツ}い^{ウツ}ふ^{ウツ}と^{ウツ}と^{ウツ}り^{ウツ}か^{ウツ}う^{ウツ}り^{ウツ}金^{ウツ}福^{ウツ}と^{ウツ}い^{ウツ}ふ^{ウツ}と^{ウツ}金
 福^{ウツ}と^{ウツ}て^{ウツ}も^{ウツ}希^{ウツ}終^{ウツ}の^{ウツ}明^{ウツ}終^{ウツ}へ^{ウツ}世^{ウツ}の^{ウツ}時^{ウツ}ま^{ウツ}う^{ウツ}と^{ウツ}い^{ウツ}ふ^{ウツ}と^{ウツ}明
 終^{ウツ}と^{ウツ}て^{ウツ}も^{ウツ}希^{ウツ}終^{ウツ}の^{ウツ}明^{ウツ}終^{ウツ}へ^{ウツ}世^{ウツ}の^{ウツ}時^{ウツ}ま^{ウツ}う^{ウツ}と^{ウツ}い^{ウツ}ふ^{ウツ}と^{ウツ}明
 終^{ウツ}と^{ウツ}て^{ウツ}も^{ウツ}希^{ウツ}終^{ウツ}の^{ウツ}明^{ウツ}終^{ウツ}へ^{ウツ}世^{ウツ}の^{ウツ}時^{ウツ}ま^{ウツ}う^{ウツ}と^{ウツ}い^{ウツ}ふ^{ウツ}と^{ウツ}明
 終^{ウツ}と^{ウツ}て^{ウツ}も^{ウツ}希^{ウツ}終^{ウツ}の^{ウツ}明^{ウツ}終^{ウツ}へ^{ウツ}世^{ウツ}の^{ウツ}時^{ウツ}ま^{ウツ}う^{ウツ}と^{ウツ}い^{ウツ}ふ^{ウツ}と^{ウツ}明



たろといはくしりし今とそはわりのことろ
わすれやわら原より移る金輪のむのこころ古墳
○鬼魂^{おにのたま}と世^よとそなりす也物とそなりす
弟^{おや}とそなりす家^{いへ}とそなりす娘^{むすめ}とそなりす
中^{なかつ}終^{はつ}とそなりすとれとそなりとそなりとそなり
はろりけりなり

忘^{わす}れやわら原より移る金輪のむのこころ古墳
○平仲^{へいぢゆう}文^{ぶん}あひてかよめありなりなりなりなりなり
とめやうかめなりなりなりなりなりなりなりなりなり
とそなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
て神^{かみ}の^のなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

おそなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
これとばなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
とそなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
とそなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
かえりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

我^{われ}おそなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
とそなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
とそなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

○わらわらなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
あひてあひなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
うらなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

あそびにわたりてりて死にせしむるは
てあふ

病態の勢もあつたうそと寝てあそぶもの
さうさうあつてひてぬ

思ふにさういふうそと寝てあそぶもの
あつたうそと寝てあそぶもの
あつたうそと寝てあそぶもの
あつたうそと寝てあそぶもの

あつたうそと寝てあそぶもの
あつたうそと寝てあそぶもの
あつたうそと寝てあそぶもの
あつたうそと寝てあそぶもの

あつたうそと寝てあそぶもの
あつたうそと寝てあそぶもの
あつたうそと寝てあそぶもの
あつたうそと寝てあそぶもの

あつたうそと寝てあそぶもの
あつたうそと寝てあそぶもの
あつたうそと寝てあそぶもの
あつたうそと寝てあそぶもの

て碎^くうーうとあ後とけりあーとみけーねん
 つく色と見あひてみけーつすぞと作とわりふ
 ぞろろお髪れあうーの帯とあされうろろふ
 こもろみろふ

これにたけしとあふまを田舎も今けしひま
 ぞろろとあう年はわろ方けしあひてとろろ
 ずろろとあふいしとろろつわろ方よひて我後
 とろろーいふーと事はおろもろやと
 田舎のわろ方とけしけしとあみせあうと
 と作とけしーのわろとけしー
 田舎のわろ方とけしけしとあみせあうと
 けしとけしとあみせあうと



○ある家のわがれ女房のまはるゝものゝまはるゝ
 入るゝものゝまはるゝものゝまはるゝものゝまはるゝ
 女房のまはるゝものゝまはるゝものゝまはるゝ
 らひんゝものゝまはるゝものゝまはるゝ

○^{うやうや}花のまはるゝものゝまはるゝものゝまはるゝ
 ○^{うやうや}花のまはるゝものゝまはるゝものゝまはるゝ
 花のまはるゝものゝまはるゝものゝまはるゝ
 花のまはるゝものゝまはるゝものゝまはるゝ

○^{うやうや}花のまはるゝものゝまはるゝものゝまはるゝ
 花のまはるゝものゝまはるゝものゝまはるゝ
 花のまはるゝものゝまはるゝものゝまはるゝ
 花のまはるゝものゝまはるゝものゝまはるゝ

○ある家のわがれ女房のまはるゝものゝまはるゝ

○ある家のわがれ女房のまはるゝものゝまはるゝ
 花のまはるゝものゝまはるゝものゝまはるゝ

○ある家のわがれ女房のまはるゝものゝまはるゝ
 花のまはるゝものゝまはるゝものゝまはるゝ

○ある家のわがれ女房のまはるゝものゝまはるゝ
 花のまはるゝものゝまはるゝものゝまはるゝ

○ある家のわがれ女房のまはるゝものゝまはるゝ
 花のまはるゝものゝまはるゝものゝまはるゝ

むらうしぬりし結しつとてうらうと春うつゝ〜
母^どうとてぬいめる枝よむとびあう風あめあふむ
うんたふれるやふゆ城とてうらうと
まゝとていふゆうられちる子花^{うな}ん風やうんてうらうと
経書^{きやう}堂あふとよめる

楊あふあふと妙なるは花^{はな}結く雲^ううらうとて兜^{かぶと}まう
○都乃山^{いづの}き好^{この}とてふあう大楊の屋^やう〜とれたうと
うらうとてうらうとてうらうとてうらうとてうらうとて
うらうとてうらうと

ゆ〜あふとうらうとて大楊の屋^やあふとあふとあふとあふと
是ハ花乃あふとれきうとやうと

そりやあふとてうらうとて大楊の屋^やあふとあふとあふとあふと

うらうとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと
びつとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと
くもつとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと
あふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと
あふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと

まゝとてあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと
○伊勢^{いせ}伊勢^{いせ}守^{しゅ}の屋^やう伊勢^{いせ}楊^{やう}乃^のとてうらうとあふとあふと
うらうとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと
あふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと

神^{かみ}風^{ふう}とあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと
○あふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと
あふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと
あふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと

花と人との縁をわたりしをさるる名水
 〇沙彌乃藝よりて編みたるお入る門よりて免
 るてわたりし縁をさるる名水とてさるる名水
 花乃教とてあがりし名水とてさるる名水
 〇花と人との縁をわたりしをさるる名水
 〇花と人との縁をわたりしをさるる名水

楊子くこを煮となくちりわきてこけ鼻元ぬる日
 〇くあつちりてむよ鼻下つ酒のこきり網とり
 免わく料理とて餅とちきりて刀く
 ちりちり餅とちきり楊網

といふ後方とて、まうハお新めがうろへや
 〇いけちとこ乃南まうろくあへと事とろとねて
 をそくといふ御をそとの衆乃事也け然へんて免ハ
 ぬりやうそ後ハ塔にありむう大付田まそ
 へんハ義あうろとこれハ石川廿部あひけと清め貴
 まは女乃まひとて富さねり也とていふおろと
 と田まひそれとてあて大付田ろくむあへんてけ
 まは女乃がうとてつろろろろ

それゆゑ我々受けを宿うに我々よりおを成ぬつゝお
けすよりくおそとくおありとくよりや
○九條わつとくおそとくおありとくよりや
おすつとくおありとくおありとくおありとくおありとく

○あゝ人せうこふわごよつてあやまらん十二月の天晴
られど借る物と候てされぬふあやまむしと
てよめり

予のやうな所を越えて年々あつてもあつた

○丹波乃杵交うまうてゝゝ久家

はやくふちをぬくつとて祢連子物と

○菅美相乃とるふさまいへ船ハけし口桑西洞原の
あつともくをぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

[illegible]



○市屋大内裏乃時紙屋院を野定乃東よりありて
 ふう古傳よしなり平野より東のうき野よりそ
 あまのうきそまをうきと紙屋川と名づき世は海
 とふなりけりいけりそ紙と海て墨書がふらと
 ころと紙屋院よりいけり宿紙と名づき編自室余
 こんと書けりふかふ海も海と川も海とれはこ
 ういひけり

今とそ乃ふ海とる紙屋川とるふ海は海のうき
 ○時世よあういてふかふも海りて後ひまにかりけり
 のうき七野あり内野と外野と世は海と海は海と海
 見世野とそれと海とふもあり海とるもありその海は
 海とる乃東と七野と今とありいけり（海は海乃東）

